

海外安全対策情報
(平成29年度第3四半期)

在エチオピア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

第3四半期(平成29年10月～12月)の情勢は以下のとおり。

(1) オロミア州、アムハラ州を中心にデモ・暴動が相次いで発生し、多数の死傷者が発生した。2018年1月現在、以下ア、イの他にも、国内各地で散発的に発生している。

ア 10月中旬から後半にかけて、オロミア州のアンボ、シャシャマネ、ドドラ、東ハラルゲ地区等において反政府運動が発生し、数十名の死者が発生した。

イ 11月初旬、アディスアベバ中心地での大規模デモの呼びかけが行われたが、実際に行われた様子は見受けられていない。

(2) 11月から12月にかけて、オロモ族とソマリ族の民族間衝突が再び激化し、多数の死者を出した。また、12月中旬にはティグライ州のアディグラッド大学での民族間衝突を起因とした学生死亡事案を受け、アムハラ州の多くの大学で抗議活動が発生し、講義を停止する事態となった。

(3) 当地では、アル・シャバーブが2013年10月にアディスアベバ市内で爆弾テロを計画(未遂)するなどしており、依然としてテロ発生の可能性がある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地においては、日本人を含む外国人を狙った強盗や窃盗事件が発生しており、第3四半期においても類似する被害が報告された。主な手口は次のとおり。

(1) 強盗事件

アディスアベバ市内において、邦人に対するものも含め、強盗事件が発生している。早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首をしめられ、抵抗できない状態に追いやられ、携帯電話や財布を強奪する手口が認められる。

(2) 窃盗事件

アディスアベバ市内において、邦人に対するものも含め、スリが増加している。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素

振りや、服に唾や液体をかける、腕をつかむ等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者のポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。犯人は一見して少年風など、若年層が多いと報告されている。

ミニバス(乗り合いタクシー)乗車中も、隣の乗客が液体を浴びせる等し、気を引いている内に携行物を盗んだ上で、社内清掃を装い被害者のみ降車させ、ミニバスごと逃走する事案が認められる。

(3) ぼったくり事件

アディスアベバ市内において、邦人に対するものも含め、ぼったくり被害が発生している。旅行者が滞在ホテル周辺を徒歩で移動していると、エチオピア人が「自分はこのホテルの関係者だが、いい飲食店を教えようか。」と近づき、「ホテルの関係者」と言われて安心し、勧められた飲食店に入って注文すると、高額の支払いを請求される手口が認められる。

3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

邦人被害の届け出はない。

(2) 強盗等

邦人被害の届け出はない。

凶悪犯罪における邦人被害の届け出はないものの、12月、アフール州ダナキルにおいて、エルタ・アレ火山を観光中の外国人旅行者が武装集団に襲撃され、殺害される事件が発生した。

地方都市等の観光地においても凶悪犯罪に巻き込まれるリスクがあるため、選定するツアー会社の信頼性や、ツアーに帯同する警護員の有無については十分に確認する必要がある。

4. テロ・爆弾事件発生状況

11月17日、バハルダール市内のホテルにおいて爆弾事件が発生。邦人被害は発生していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

6. 自然災害発生の事例

国内において大きな災害は発生していない。

7. 対日感情

対日感情に係る問題は認知していない。

8. 日本企業の安全に係わる諸問題

現在、日本人を標的としたテロ行為は確認されていないが、市民の反政府運動や民族間衝突が国内各地で断続的に発生しており、鎮圧のために治安部隊が投入された場合、銃撃となる可能性が高いため、車両移動中においても常に周囲への注意が必要である。

これらに巻き込まれた場合、道路封鎖による陸路の寸断や、投石・銃撃による、身体への受傷事故が懸念される。